

5 働き方について

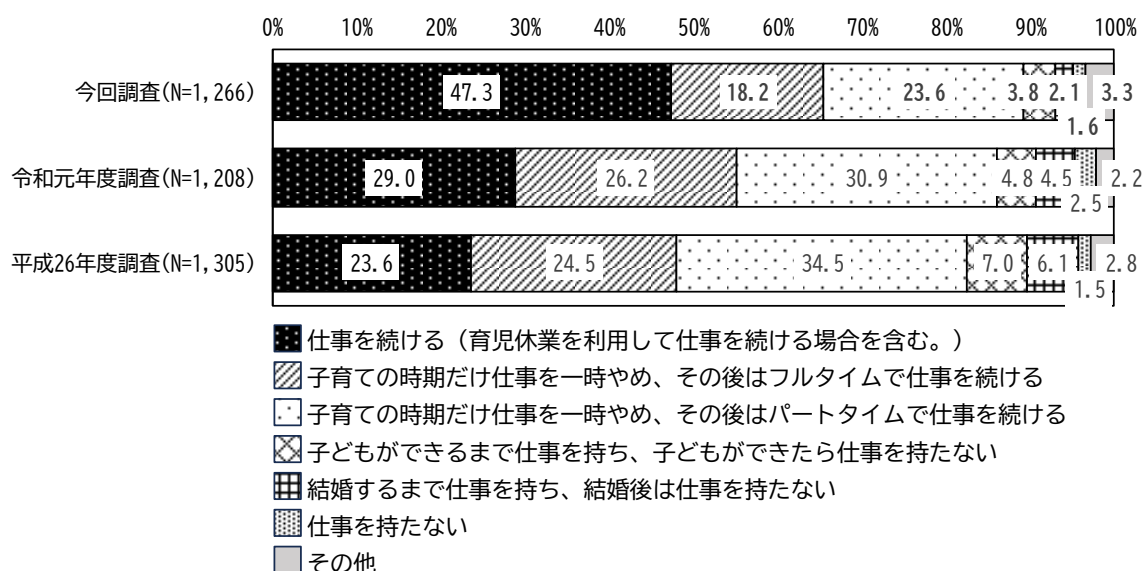
(1) 女性自身が考える理想の働き方（女性の方のみ）

問21 現在、あなたが思う理想の働き方について、あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。

●「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が47.3%で最多

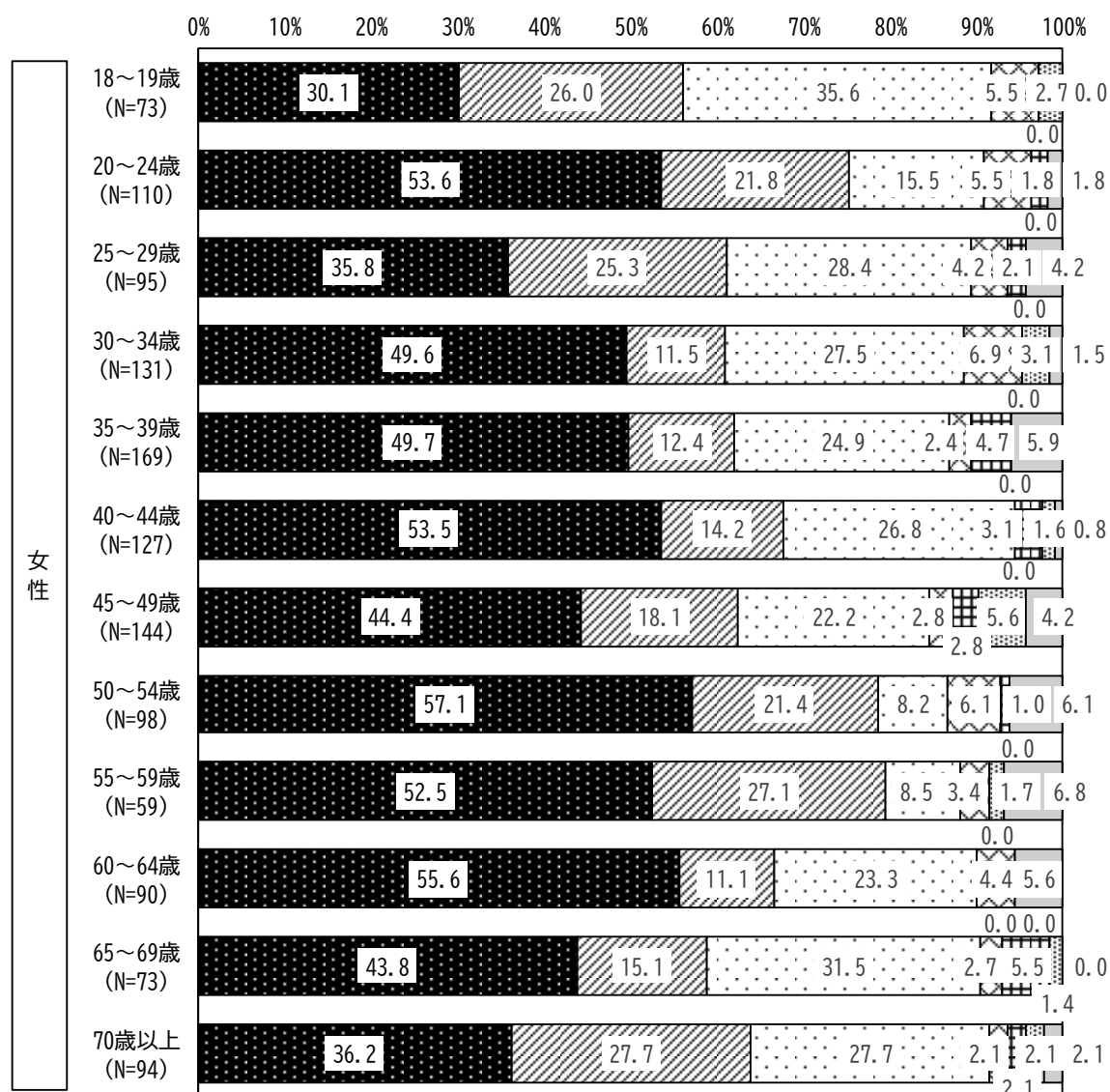
女性自身の考える理想の働き方は、「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多く 47.3%、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が23.6%、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が18.2%と続いている。

令和元年度調査と比較して「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」は18.3ポイント大きく上昇している。一方で、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイム（パートタイム）で仕事を続ける」は低下している。



【年代別】

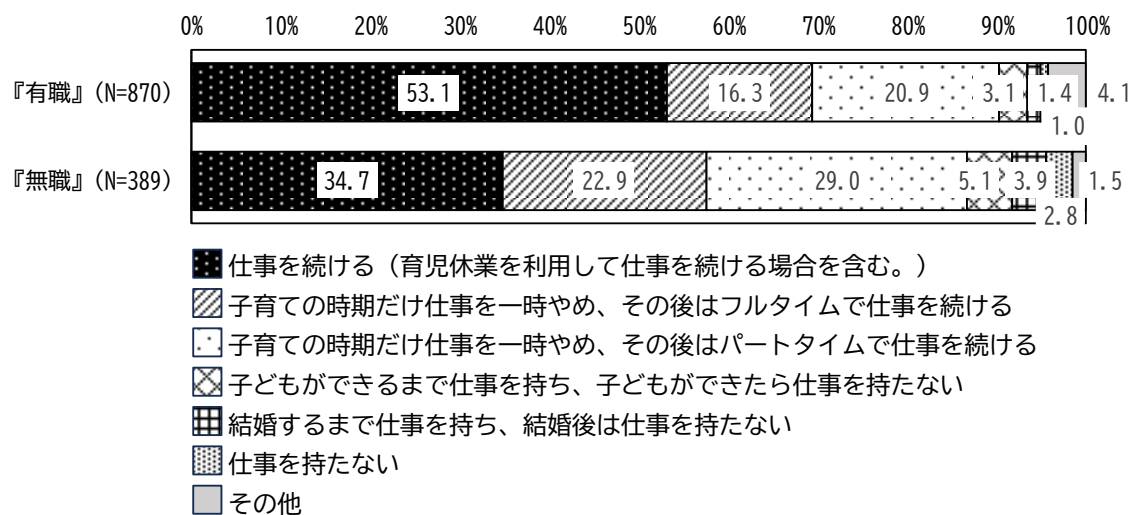
18～19 歳は「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が、20 歳以上は「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多くなっている。



- 仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）
- ▨ 子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- ▤ 子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ▩ 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらず仕事をもちたない
- ▦ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事をもちたない
- ░ 仕事をもちたない
- その他

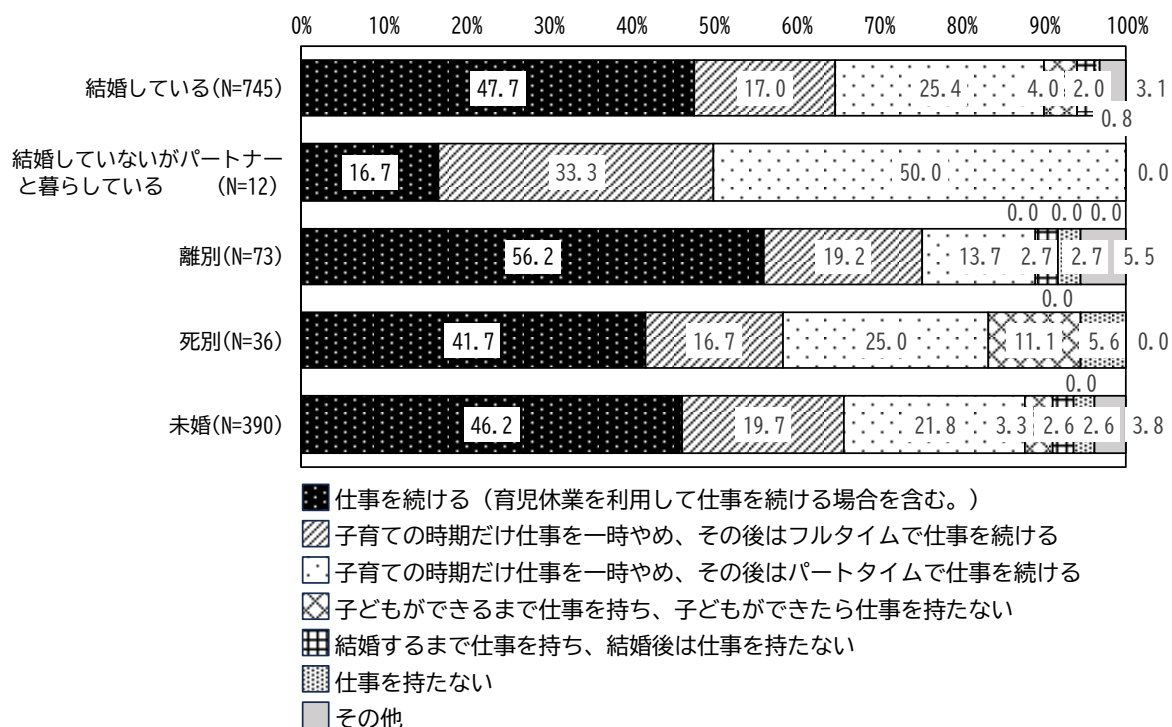
【就労の有無別】

『有職』、『無職』ともに、「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多く、『無職』は「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」も多くなっている。



【婚姻状況別】

結婚している、離別、死別、未婚は「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が、結婚していないがパートナーと暮らしているは「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多くなっている。

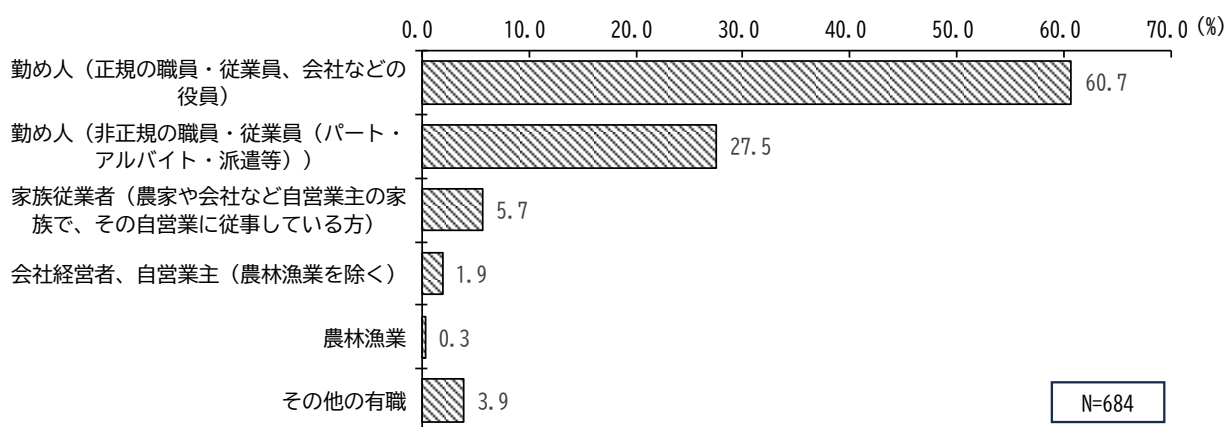


(2) 第一子出産時の主な職業（女性の方のみ）

問22 第一子のお子さんが生まれた時の、あなたの主なご職業は次のどれに当たりますか。
あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。当時、出産や子育てをきっかけにお仕事をやめた方は、やめた職業を選んでください。

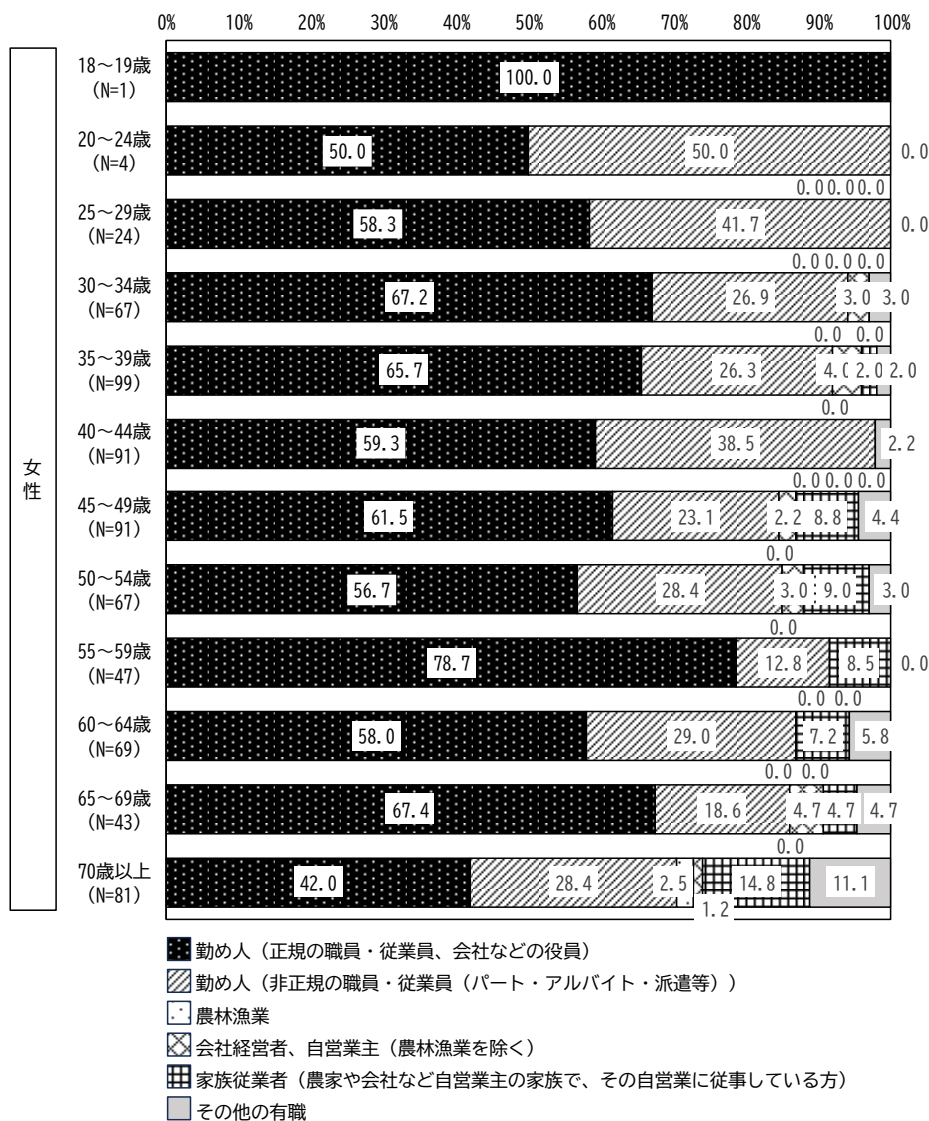
●「勤め人（正規の職員・従業員、会社などの役員）」が 60.7%で最多

第一子出産時の主な職業は、「勤め人（正規の職員・従業員、会社などの役員）」が最も多く 60.7%、次いで「勤め人（非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・派遣等）」が 27.5%、「家族従業者（農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）」が 5.7%と続いている。



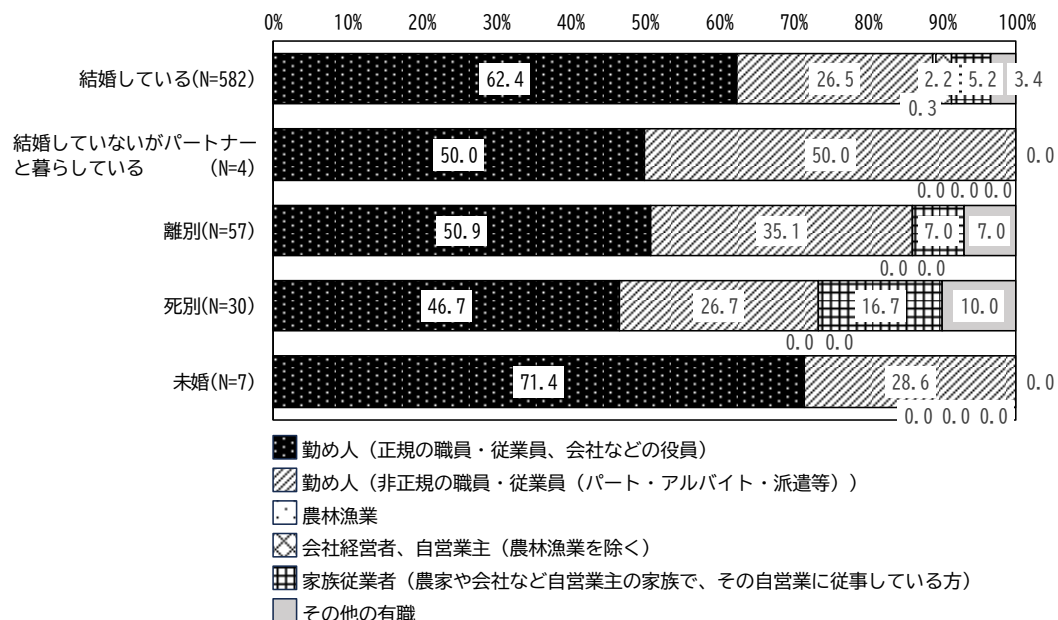
【年代別】

どの年代においても「勤め人（正規の職員・従業員、会社などの役員）」が最も多く、次いで「勤め人（非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・派遣等）」が多くなっている。（20～24歳は「勤め人（非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・派遣等）」と同率）



【婚姻状況別】

どの婚姻状況においても「勤め人（正規の職員・従業員、会社などの役員）」が最も多く、次いで「勤め人（非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・派遣等）」が多くなっている。（結婚していないがパートナーと暮らしているは「勤め人（非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・派遣等）」と同率）

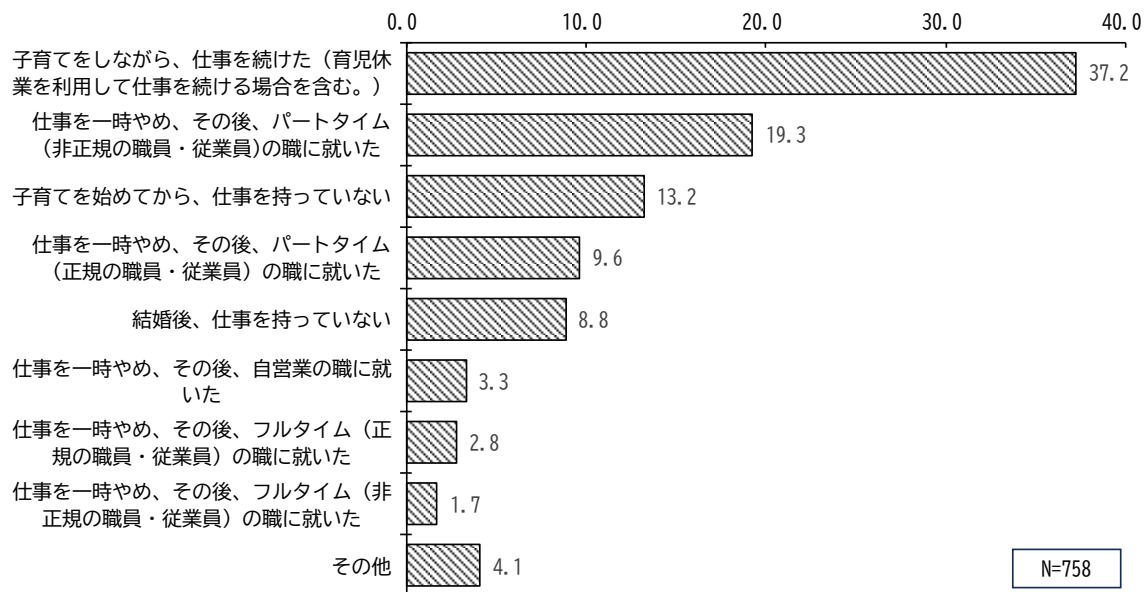


(3) 第一子の子育てを始めたことによる仕事の状況（女性の方のみ）

問23 第一子のお子さんの子育てを始めたことで、あなたの仕事はどうになりましたか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。

- 「子育てをしながら、仕事を続けた（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が 37.2% で最多

第一子の子育てを始めたことによる仕事の状況は、「子育てをしながら、仕事を続けた（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多く 37.2%、次いで「仕事を一時やめ、その後、パートタイム（非正規の職員・従業員）の職に就いた」が 19.3%、「子育てを始めてから、仕事を持っていない」が 13.2%と続いている。



【年代別】

50～59 歳を除く年代は「子育てをしながら、仕事を続けた（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が、50～59 歳は「仕事を一時やめ、その後、パートタイム（非正規の職員・従業員）の職に就いた」が最も多くなっている。

※太字は上位3つ（「その他」を除く）、下線は最上位

	県全体 (N=758)	18～19歳 (N=0)	20～29歳 (N=24)	30～39歳 (N=182)	40～49歳 (N=198)	50～59歳 (N=127)	60～69歳 (N=134)	70歳以上 (N=90)
子育てをしながら、仕事を続けた （育児休業を利用して仕事を続ける 場合を含む。）	37.2	0.0	41.7	49.5	34.3	25.2	34.3	40.0
仕事を一時やめ、その後、パートタ イム（非正規の職員・従業員）の職に 就いた	19.3	0.0	16.7	13.2	17.7	29.9	23.9	14.4
子育てを始めてから、仕事を持っ ていない	13.2	0.0	8.3	19.2	11.1	8.7	11.2	16.7
仕事を一時やめ、その後、パートタ イム（正規の職員・従業員）の職に 就いた	9.6	0.0	0.0	4.4	17.7	9.4	9.7	5.6
結婚後、仕事を持っていない	8.8	0.0	0.0	4.4	5.1	10.2	13.4	16.7
仕事を一時やめ、その後、自営業の 職に就いた	3.3	0.0	8.3	1.1	4.0	3.1	6.0	1.1
仕事を一時やめ、その後、フルタイ ム（正規の職員・従業員）の職に就 いた	2.8	0.0	16.7	2.2	3.0	3.1	0.0	3.3
仕事を一時やめ、その後、フルタイ ム（非正規の職員・従業員）の職に 就いた	1.7	0.0	0.0	0.0	4.0	3.9	0.0	0.0
その他	4.1	0.0	8.3	6.0	3.0	6.3	1.5	2.2

単位：%

【婚姻状況別】

結婚しているでは、「子育てをしながら、仕事を続けた（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多く 37.6%、次いで「仕事を一時やめ、その後、パートタイム(非正規の職員・従業員)の職に就いた」が 19.3%と多くなっている。

※太字は上位3つ（「その他」を除く）、下線は最上位

	県全体 (N=758)	結婚している (N=652)	結婚していないが パートナーと暮ら している (N=4)	離別 (N=57)	死別 (N=36)	未婚 (N=4)
子育てをしながら、仕事を続けた (育児休業を利用して仕事を続ける 場合を含む。)	37.2	37.6	0.0	36.8	33.3	50.0
仕事を一時やめ、その後、パート タイム(非正規の職員・従業員)の職に 就いた	19.3	19.6	50.0	24.6	5.6	0.0
子育てを始めてから、仕事を持っ ていない	13.2	13.5	0.0	7.0	22.2	0.0
仕事を一時やめ、その後、パート タイム(正規の職員・従業員)の職に 就いた	9.6	10.0	0.0	7.0	5.6	0.0
結婚後、仕事を持っていない	8.8	9.0	0.0	0.0	19.4	0.0
仕事を一時やめ、その後、自営業 の職に就いた	3.3	3.2	0.0	7.0	0.0	0.0
仕事を一時やめ、その後、フルタ イム(正規の職員・従業員)の職に就 いた	2.8	1.8	50.0	3.5	8.3	50.0
仕事を一時やめ、その後、フルタ イム(非正規の職員・従業員)の職に 就いた	1.7	0.8	0.0	14.0	0.0	0.0
その他	4.1	4.4	0.0	0.0	5.6	0.0

単位：%

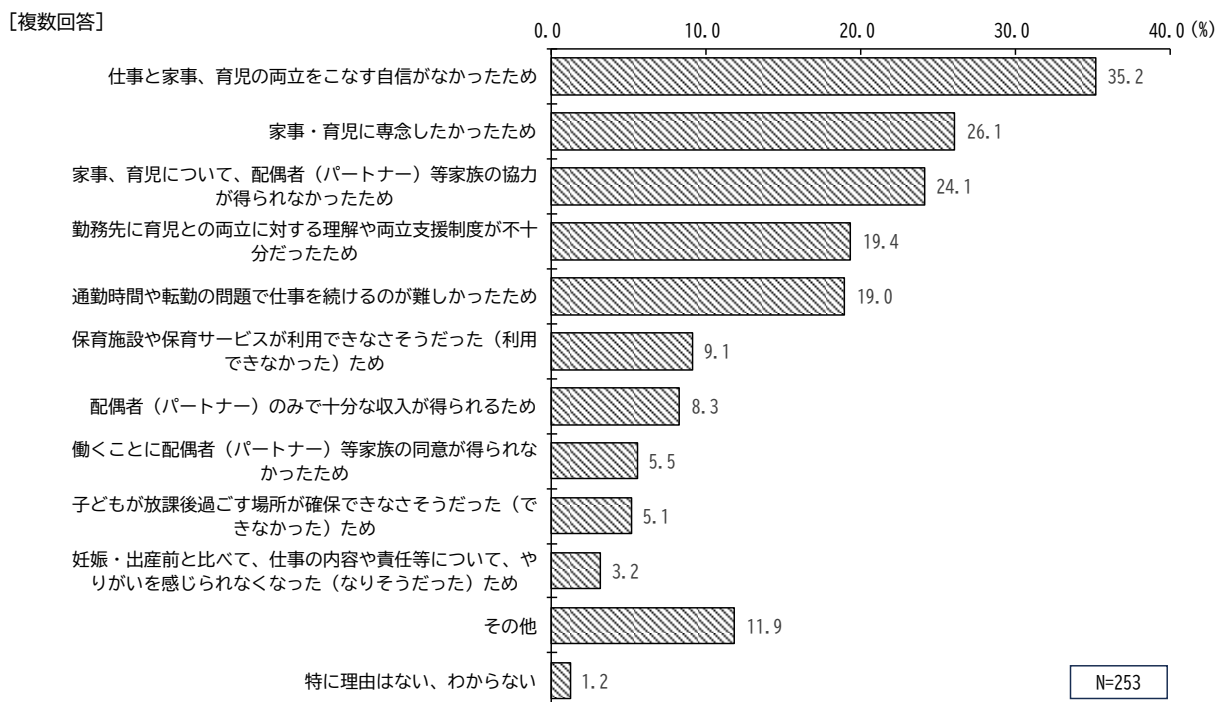
(4) 第一子の子育てを始めたことで仕事をやめた理由（女性の方のみ）

付問1 問23で「2」～「5」と回答をされた方へおたずねします。

第一子の子育てを始めたことで仕事をやめた理由は次のどれに当たりますか。あてはまるものの番号をすべて選んでください。

●「仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため」が35.2%で最多

第一子の子育てを始めたことで仕事をやめた理由は、「仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため」が最も多く35.2%、次いで「家事・育児に専念したかったため」が26.1%、「家事、育児について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られなかったため」が24.1%と続いている。



【年代別】

20～69 歳は「仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため」、70 歳以上は「家事、育児について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られなかったため」が最も多くなっている。（20～29 歳は「家事・育児に専念したかったため」「通勤時間や転勤の問題で仕事を続けるのが難しかったため」と同率）」

※太字は上位3つ（「その他」・「特に理由はない、わからない」を除く）、下線は最上位

【複数回答】	県全体 (N=253)	18～19歳 (N=0)	20～29歳 (N=8)	30～39歳 (N=36)	40～49歳 (N=84)	50～59歳 (N=59)	60～69歳 (N=45)	70歳以上 (N=21)
仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため	35.2	0.0	50.0	66.7	33.3	30.5	31.1	4.8
家事・育児に専念したかったため	26.1	0.0	50.0	27.8	28.6	20.3	26.7	19.0
家事、育児について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られなかったため	24.1	0.0	0.0	22.2	19.0	22.0	26.7	57.1
勤務先に育児との両立に対する理解や両立支援制度が不十分だったため	19.4	0.0	25.0	16.7	19.0	28.8	13.3	9.5
通勤時間や転勤の問題で仕事を続けるのが難しかったため	19.0	0.0	50.0	5.6	26.2	13.6	13.3	28.6
保育施設や保育サービスが利用できなさそうだった（利用できなかった）ため	9.1	0.0	0.0	11.1	11.9	6.8	8.9	4.8
配偶者（パートナー）のみで十分な収入が得られるため	8.3	0.0	0.0	11.1	7.1	3.4	17.8	4.8
働くことに配偶者（パートナー）等家族の同意が得られなかったため	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	13.3	19.0
子どもが放課後過ごす場所が確保できなさそうだった（できなかった）ため	5.1	0.0	0.0	5.6	7.1	6.8	0.0	4.8
妊娠・出産前と比べて、仕事の内容や責任等について、やりがいを感じられなくなった（なりそうだった）ため	3.2	0.0	0.0	0.0	7.1	3.4	0.0	0.0
その他	11.9	0.0	0.0	22.2	16.7	3.4	13.3	0.0
特に理由はない、わからない	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	2.2	0.0

単位：％

【婚姻状況別】

結婚しているでは、「仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため」が最も多く36.7%、次いで「家事・育児に専念したかったため」が24.8%、「家事、育児について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られなかったため」が24.3%と続いている。

※太字は上位3つ（「その他」・「特に理由はない、わからない」を除く）、下線は最上位

【複数回答】	県全体 (N=253)	結婚している (N=210)	結婚していないが パートナーと暮ら している (N=4)	離別 (N=28)	死別 (N=7)	未婚 (N=2)
仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため	35.2	36.7	0.0	35.7	0.0	100.0
家事・育児に専念したかったため	26.1	24.8	0.0	21.4	57.1	100.0
家事、育児について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られなかったため	24.1	24.3	0.0	28.6	28.6	0.0
勤務先に育児との両立に対する理解や両立支援制度が不十分だったため	19.4	18.6	0.0	28.6	0.0	100.0
通勤時間や転勤の問題で仕事を続けるのが難しかったため	19.0	15.7	50.0	28.6	42.9	100.0
保育施設や保育サービスが利用できなかった（利用できなかった）ため	9.1	9.5	0.0	7.1	14.3	0.0
配偶者（パートナー）のみで十分な収入が得られるため	8.3	8.6	50.0	0.0	14.3	0.0
働くことに配偶者（パートナー）等家族の同意が得られなかったため	5.5	5.7	0.0	0.0	28.6	0.0
子どもが放課後過ごす場所が確保できなかった（できなかった）ため	5.1	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0
妊娠・出産前と比べて、仕事の内容や責任等について、やりがいを感じられなくなった（なりそうだった）ため	3.2	2.9	0.0	7.1	0.0	0.0
その他	11.9	10.5	0.0	28.6	0.0	0.0
特に理由はない、わからない	1.2	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

【職業別】

勤め人（正規・非正規）では「仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため」が最も多く、次いで勤め人（正規）は「勤務先に育児との両立に対する理解や両立支援制度が不十分だったため」が、勤め人（非正規）は「家事・育児に専念したかったため」が多くなっている。

※太字は上位3つ（「その他」・「特に理由はない、わからない」を除く）、下線は最上位

【複数回答】	県全体 (N=253)	勤め人 (正規) (N=45)	勤め人 (非正規) (N=160)	農林漁業 (N=0)	会社経営者 、自営業主 (N=2)	家族 従業者 (N=0)	その他の 有職 (N=4)	家事専業 (N=21)	学生 (N=2)	無職 (N=17)
仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため	35.2	48.9	35.0	0.0	0.0	0.0	50.0	14.3	100.0	11.8
家事・育児に専念したかったため	26.1	17.8	30.0	0.0	0.0	0.0	50.0	19.0	0.0	23.5
家事、育児について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られなかったため	24.1	24.4	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	35.3
勤務先に育児との両立に対する理解や両立支援制度が不十分だったため	19.4	37.8	13.8	0.0	100.0	0.0	0.0	28.6	0.0	11.8
通勤時間や転勤の問題で仕事を続けるのが難しかったため	19.0	17.8	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	0.0	35.3
保育施設や保育サービスが利用できなかった（利用できなかった）ため	9.1	13.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	5.9
配偶者（パートナー）のみで十分な収入が得られるため	8.3	4.4	7.5	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	17.6
働くことに配偶者（パートナー）等家族の同意が得られなかったため	5.5	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	23.5
子どもが放課後過ごす場所が確保できなかった（できなかった）ため	5.1	4.4	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
妊娠・出産前と比べて、仕事の内容や責任等について、やりがいを感じられなくなった（なりそうだった）ため	3.2	8.9	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	11.9	4.4	15.0	0.0	0.0	0.0	50.0	9.5	0.0	0.0
特に理由はない、わからない	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

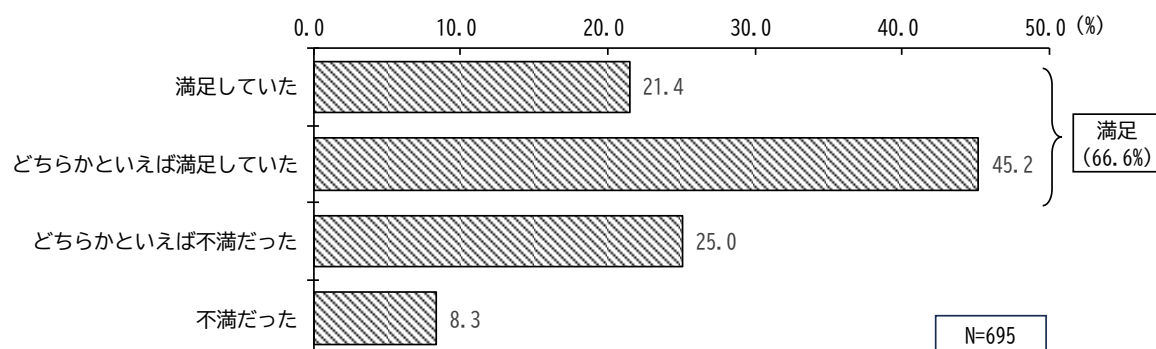
単位：%

(5) 第一子の子育てを始めた当時の子育てと仕事の状況に対する満足度（女性の方のみ）

付問2 問23でお答えいただいた当時の子育てと仕事の状況について、当時のあなたは、どの程度満足していましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

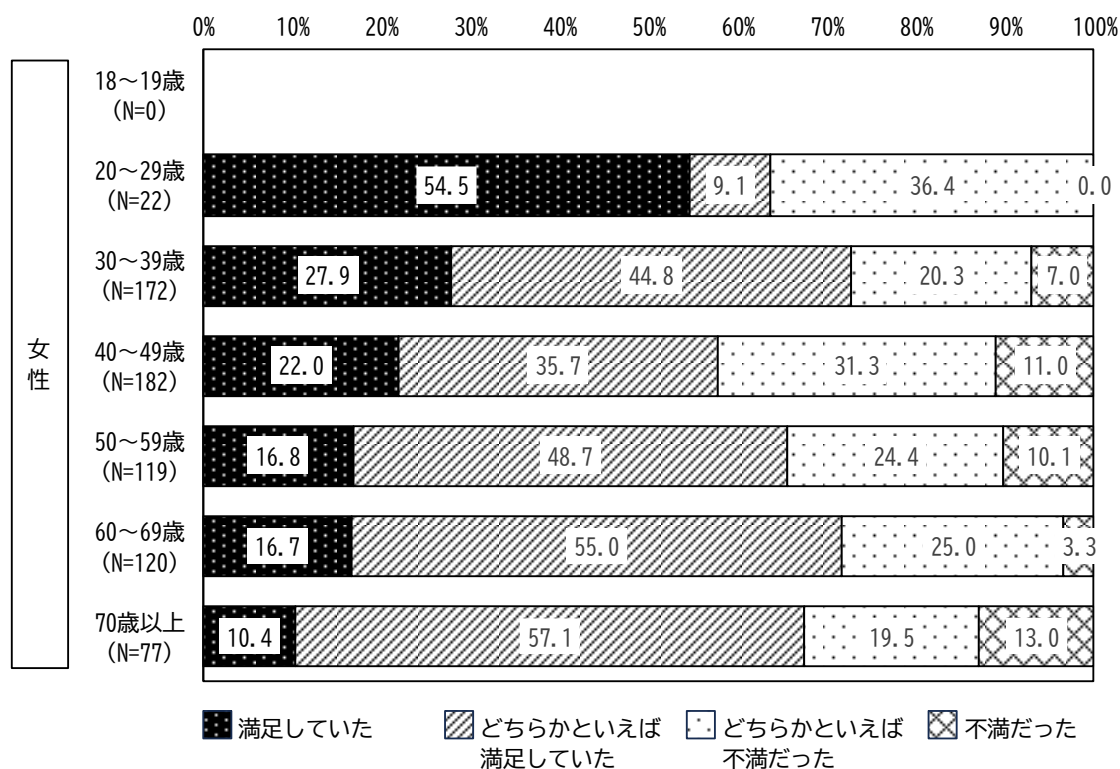
●「満足していた」「どちらかといえば満足していた」をあわせた『満足』が 66.6%

第一子の子育てを始めた当時の子育てと仕事の状況に対する満足度は、「どちらかといえば満足していた」が最も多く 45.2%、次いで「どちらかといえば不満だった」が 25.0%、「満足していた」が 21.4%と続いている。「満足していた」と「どちらかといえば満足していた」をあわせた『満足』は 66.6%となっている。



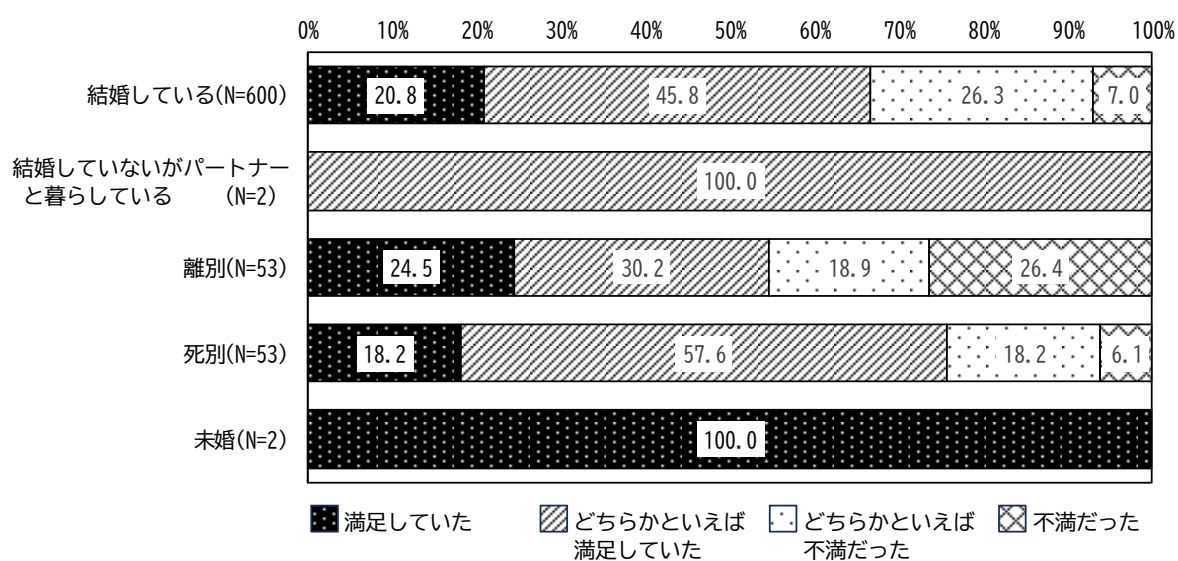
【年代別】

20～29歳は「満足していた」が、30歳以上は「どちらかといえば満足していた」が最も多くなっており、どの年代においても『満足』が多くなっている。



【婚姻状況別】

未婚は「満足していた」が、その他の婚姻状況は「どちらかといえば満足していた」が最も多くなっている。一方で、離別は「不満だった」がその他の婚姻状況に比べ多くなっている。



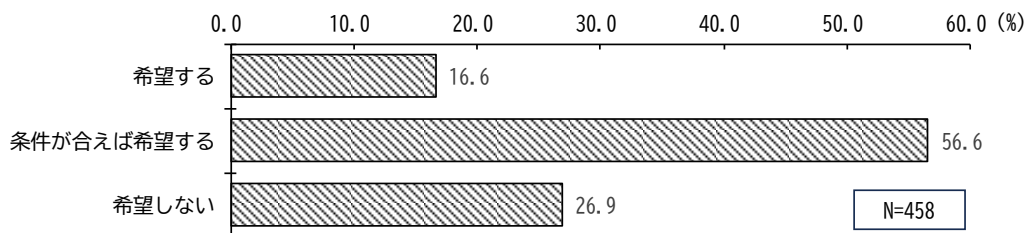
(6) 正規の会社員・職員・従業員として働く意向

(職業が勤め人(非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・派遣等))の方のみ)

問24 正規の会社員・職員・従業員として働くことができるのであれば、働くことを希望しますか。(○は1つだけ)

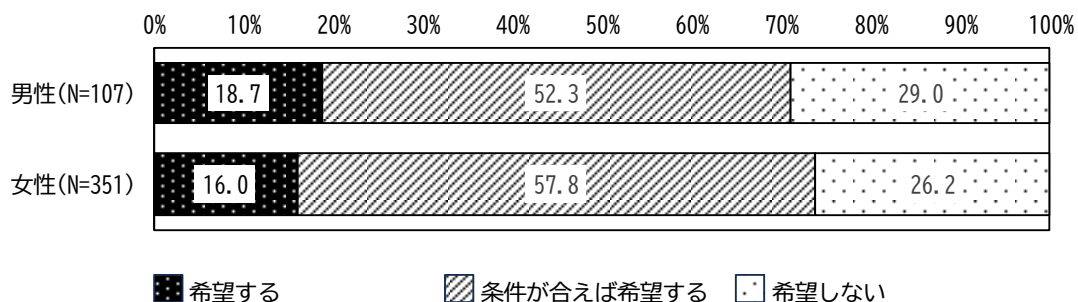
●「条件が合えば希望する」と「希望する」をあわせた『希望する』が73.2%

正規の会社員・職員・従業員として働く意向は、「条件が合えば希望する」が最も多く56.6%、次いで「希望しない」が26.9%、「希望する」が16.6%となっている。「条件が合えば希望する」と「希望する」をあわせた『希望する』は73.2%となっている。



【性別】

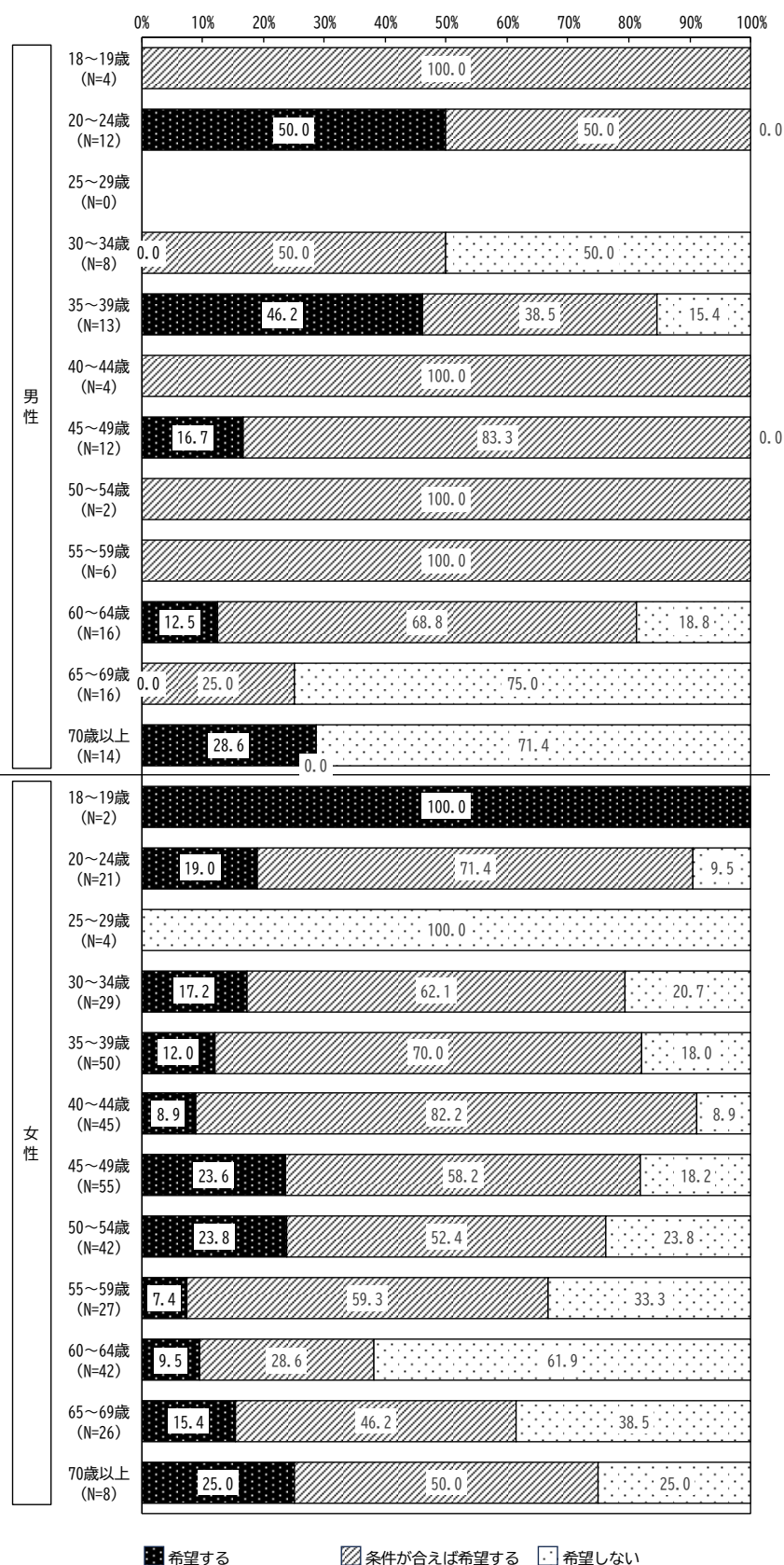
男性、女性ともに「条件が合えば希望する」が最も多く、男性が52.3%、女性が57.8%となっている。



【性・年代別】

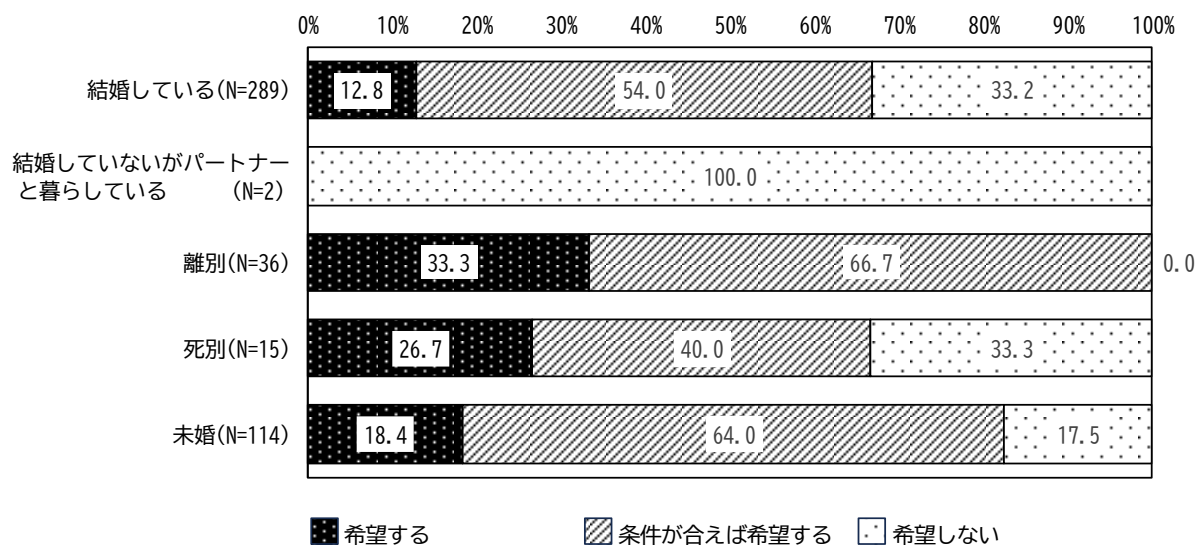
男性では、35～39歳は「希望する」が、65歳以上は「希望しない」が、その他の年代は「条件が合えば希望する」が多くなっている。(20～24歳は「希望する」、30～34歳は「希望しない」と同率)

女性では、18～19歳は「希望する」が、25～29歳、60～64歳は「希望しない」が、その他の年代は「条件が合えば希望する」が多くなっている。



【婚姻状況別】

結婚していないがパートナーと暮らしているを除いて『希望する』が多くなっている。



(7) 正規の会社員・職員・従業員として働いていない理由

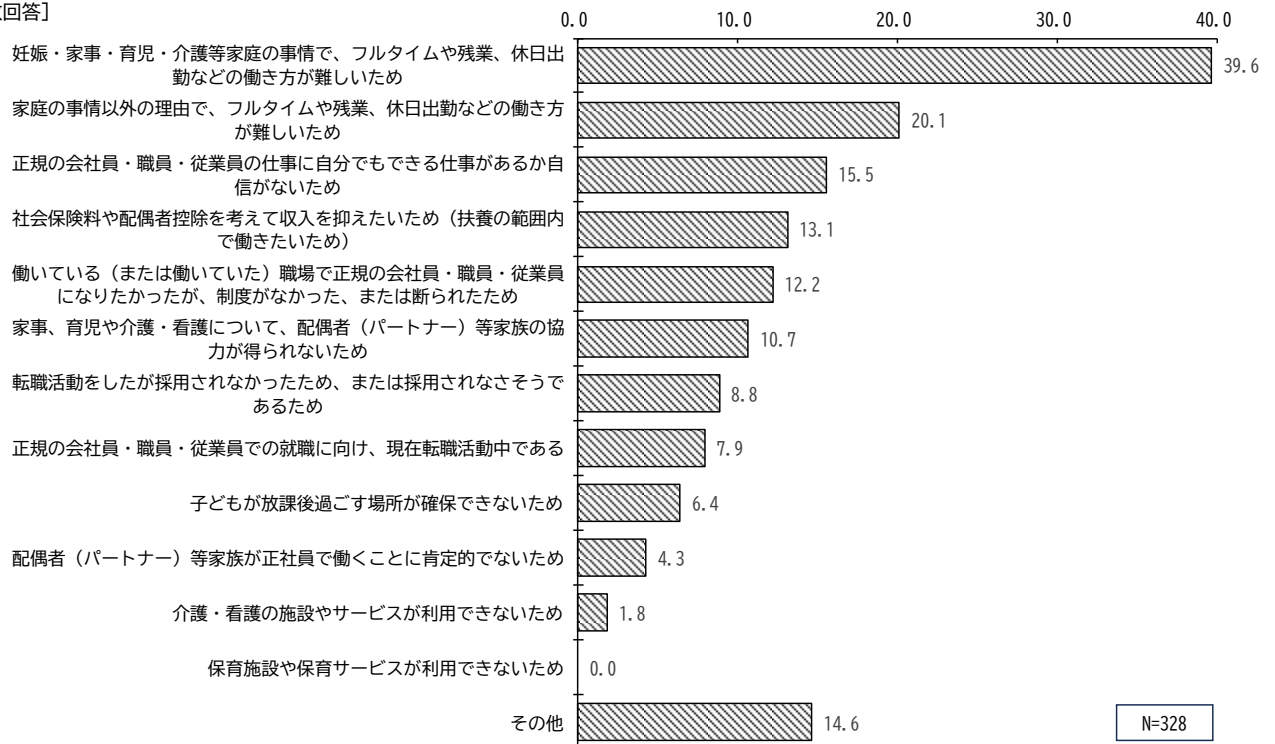
(職業が勤め人(非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・派遣等))の方のみ)

付問1 問24で「1」または「2」と回答をされた方へおたずねします。現在、正規の会社員・職員・従業員として働いていない理由について、あてはまるものの番号をすべて選んでください。

- 「妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が39.6%で最多

正規の会社員・職員・従業員として働いていない理由は、「妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が最も多く39.6%、次いで「家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が20.1%、「正規の会社員・職員・従業員の仕事に自分でもできる仕事があるか自信がないため」が15.5%と続いている。

[複数回答]



【性別】

男性では、「働いている（または働いていた）職場で正規の会社員・職員・従業員になりたかったが、制度がなかった、または断られたため」が最も多く 18.9%、次いで「転職活動をしたが採用されなかったため、または採用されなさそうであるため」が 17.6%と続いている。

女性では、「妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が最も多く 48.0%、次いで「家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が 21.7%と続いている。

※太字は上位3つ（「その他」を除く）、下線は最上位

【複数回答】	県全体(N=328)	男性(N=74)	女性(N=254)
妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため	39.6	10.8	48.0
家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため	20.1	14.9	21.7
正規の会社員・職員・従業員の仕事に自分でもできる仕事があるか自信がないため	15.5	12.2	16.5
社会保険料や配偶者控除を考えて収入を抑えたいため（扶養の範囲内で働きたいため）	13.1	8.1	14.6
働いている（または働いていた）職場で正規の会社員・職員・従業員になりたかったが、制度がなかった、または断られたため	12.2	18.9	10.2
家事、育児や介護・看護について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られないため	10.7	0.0	13.8
転職活動をしたが採用されなかったため、または採用されなさそうであるため	8.8	17.6	6.3
子どもが放課後過ごす場所が確保できないため	6.4	0.0	8.3
配偶者（パートナー）等家族が正社員で働くことに肯定的でないため	4.3	0.0	5.5
介護・看護の施設やサービスが利用できないため	1.8	2.7	1.6
正規の会社員・職員・従業員での就職に向け、現在転職活動中である	0.1	0.3	0.0
保育施設や保育サービスが利用できないため	0.0	0.0	0.0
その他	0.1	0.3	0.1

単位：%

【性・年代別】

男性では、18～19 歳、20～29 歳は「正規の会社員・職員・従業員での就職に向け、現在転職活動中である」が多いが、30 歳以上は働きたくても働けない理由の割合が高い傾向にある。

女性では、18～19 歳は「正規の会社員・職員・従業員での就職に向け、現在転職活動中である」が、20～29 歳は「家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が、30～69 歳は「妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が最も多くなっている。

		男性							女性						
【複数回答】	県全体 (N=328)	18～19 歳 (N=4)	20～29 歳 (N=12)	30～39 歳 (N=15)	40～49 歳 (N=16)	50～59 歳 (N=8)	60～69 歳 (N=17)	70歳以上 (N=2)	18～19 歳 (N=2)	20～29 歳 (N=17)	30～39 歳 (N=63)	40～49 歳 (N=86)	50～59 歳 (N=50)	60～69 歳 (N=30)	70歳以上 (N=6)
妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しかったため	39.6	0.0	0.0	26.7	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	11.8	69.8	46.5	44.0	46.7	0.0
家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しかったため	20.1	50.0	0.0	33.3	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	29.4	19.0	20.9	24.0	26.7	0.0
正規の会社員・職員・従業員の仕事に自分でもできる仕事があるか自信がないため	15.5	50.0	0.0	6.7	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	11.8	22.2	18.6	8.0	20.0	0.0
社会保険料や配偶者控除を考えて収入を抑えたいため（扶養の範囲内で働きたいため）	13.1	0.0	0.0	26.7	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	11.8	9.5	17.4	12.0	20.0	33.3
働いている（または働いていた）職場で正規の会社員・職員・従業員になりたかったが、制度がなかった、または断られたため	12.2	0.0	0.0	26.7	12.5	50.0	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6	24.0	13.3	0.0
家事、育児や介護・看護について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られないため	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	15.1	12.0	13.3	0.0
転職活動をしたが採用されなかったため、または採用されなさそうであるため	8.8	0.0	0.0	26.7	12.5	25.0	29.4	0.0	0.0	0.0	3.2	7.0	16.0	0.0	0.0
子どもが放課後過ごす場所が確保できないため	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0	8.1	4.0	0.0	0.0
配偶者（パートナー）等家族が正社員で働くことに肯定的でないため	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	7.0	8.0	6.7	0.0
介護・看護の施設やサービスが利用できないため	1.8	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0
保育施設や保育サービスが利用できないため	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
正規の会社員・職員・従業員での就職に向け、現在転職活動中である	7.9	50.0	66.7	13.3	25.0	25.0	0.0	100.0	100.0	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14.6	50.0	33.3	26.7	12.5	0.0	47.1	0.0	0.0	5.9	7.9	16.3	4.0	6.7	66.7

単位：%

【婚姻状況別】

結婚している、離別は「妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため」が最も多くなっている。

※太字は上位3つ（「その他」を除く）、下線は最上位

	県全体(N=328)	結婚している (N=193)	結婚していない がパートナー と暮らしている (N=0)	離別(N=34)	死別(N=8)	未婚(N=91)
妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため	39.6	51.8	0.0	52.9	0.0	13.2
家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため	20.1	17.6	0.0	29.4	25.0	22.0
正規の会社員・職員・従業員の仕事に自分でもできる仕事があるか自信がないため	15.5	11.4	0.0	17.6	0.0	25.3
社会保険料や配偶者控除を考えて収入を抑えたいため（扶養の範囲内で働きたいため）	13.1	17.1	0.0	11.8	0.0	6.6
働いている（または働いていた）職場で正規の会社員・職員・従業員になりたかったが、制度がなかった、または断られたため	12.2	11.4	0.0	23.5	25.0	8.8
家事、育児や介護・看護について、配偶者（パートナー）等家族の協力が得られないため	10.7	14.0	0.0	11.8	25.0	2.2
転職活動をしたが採用されなかったため、または採用されなさそうであるため	8.8	4.7	0.0	5.9	25.0	15.4
正規の会社員・職員・従業員での就職に向け、現在転職活動中である	7.9	1.0	0.0	11.8	0.0	22.0
子どもが放課後過ごす場所が確保できないため	6.4	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者（パートナー）等家族が正社員で働くことに肯定的でないため	4.3	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0
介護・看護の施設やサービスが利用できないため	1.8	2.1	0.0	0.0	0.0	2.2
保育施設や保育サービスが利用できないため	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14.6	11.4	0.0	23.5	0.0	19.8

単位：％

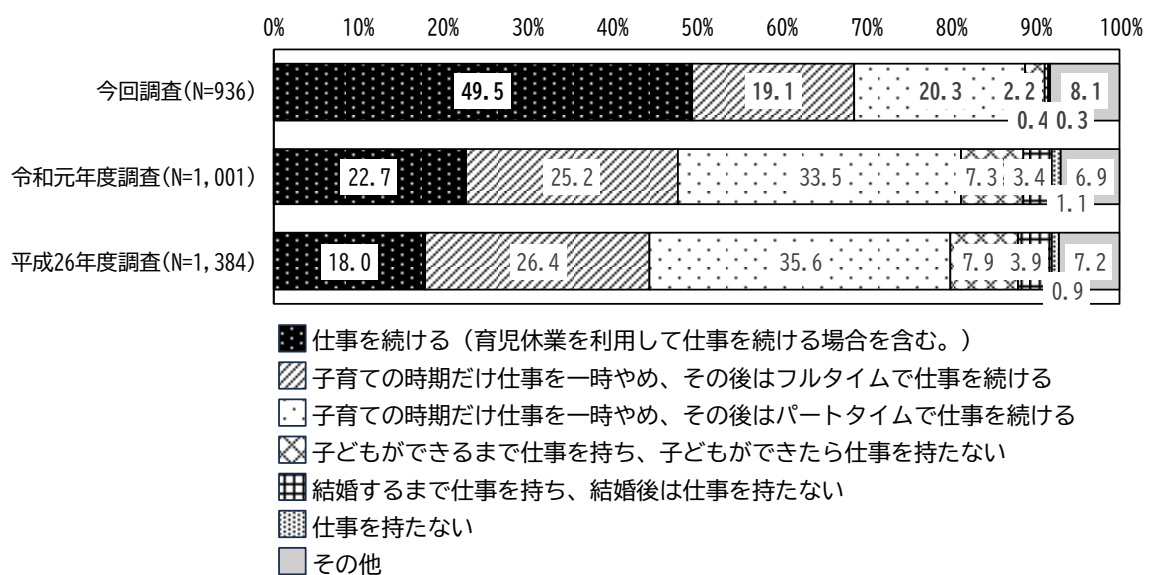
（８）男性が考える女性の理想の働き方（男性の方のみ）

問25 あなたが理想とする女性の働き方の形はどれですか。あてはまるものの番号を、1つだけ選んでください。

- 男性が考える女性の理想の働き方は、「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が49.5%で最多

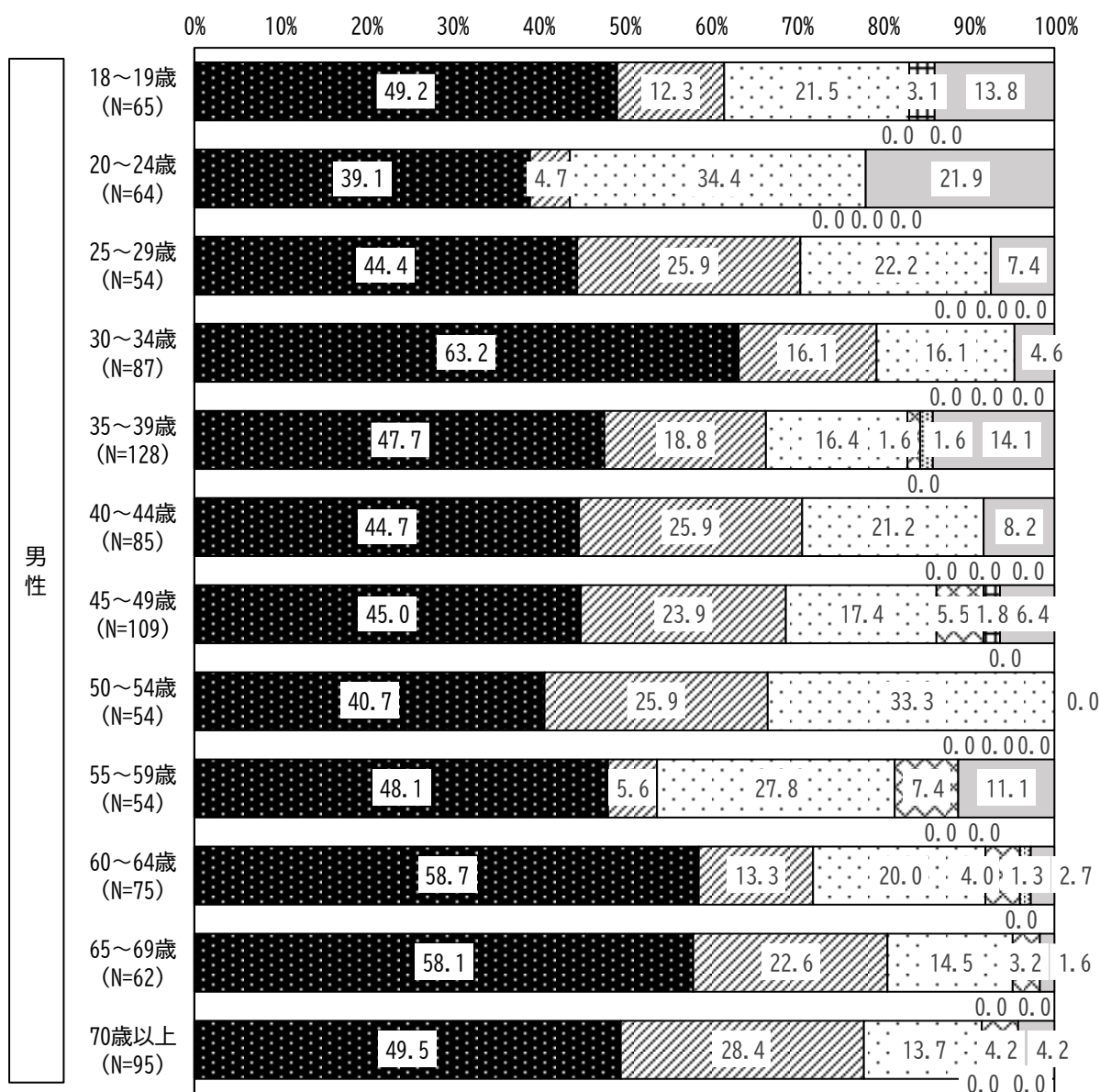
男性が考える女性の理想の働き方は、「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多く49.5%、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が20.3%と続いている。

令和元年度調査と比較して「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」は26.8ポイント大きく上昇している。一方で、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイム（パートタイム）で仕事を続ける」は低下している。



【年代別】

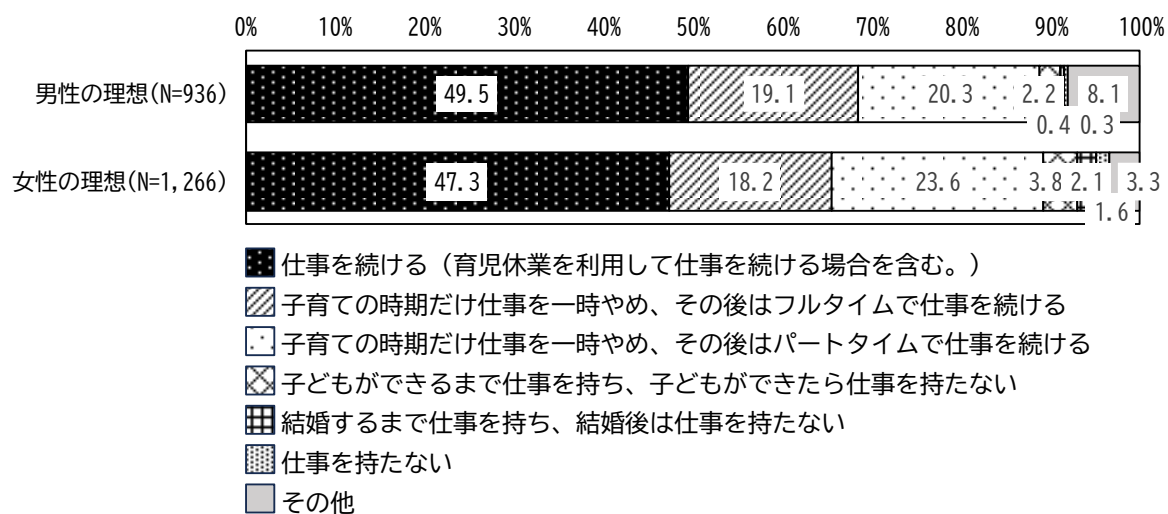
どの年代においても「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多くなっている。



- 仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）
- ▨ 子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- ░ 子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ▩ 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたらず仕事を持たない
- ▤ 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事を持たない
- 仕事を持たない
- その他

【男性の理想と女性の理想（参照：p.144）】

男性、女性ともに「仕事を続ける（育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。）」が最も多く、男性が49.5%、女性が47.3%となっている。



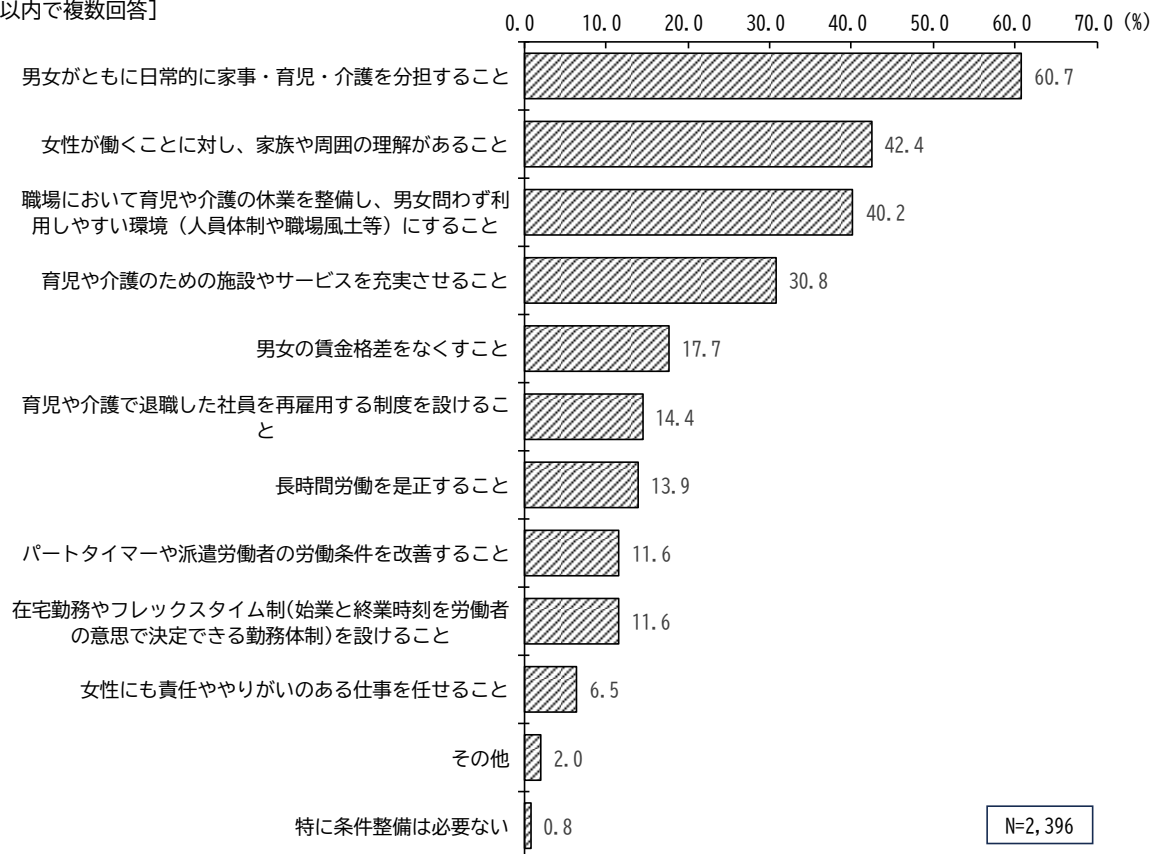
(9) 女性が仕事を続けていくために必要なこと

問26 あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
必要だと思うものの番号を、3つまで選んでください。

●「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」、が 60.7%で最多

女性が仕事を続けていくために必要なことは、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が最も多く 60.7%、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」が 42.4%、「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土等）にすること」が 40.2%と続いている。

[3つ以内で複数回答]



【性別】

男性、女性ともに「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が最も多く、男性が 55.7%、女性が 65.0%、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」が多くなっている。

※太字は上位3つ（「その他」・「特に条件整備は必要ない」を除く）、下線は最上位

〔3つ以内で複数回答〕	県全体(N=2,396)	男性(N=1,072)	女性(N=1,303)
男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること	60.7	55.7	65.0
女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること	42.4	44.7	40.9
職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土等）にすること	40.2	41.3	39.7
育児や介護のための施設やサービスを充実させること	30.8	28.8	32.5
男女の賃金格差をなくすこと	17.7	14.8	20.1
育児や介護で退職した社員を再雇用する制度を設けること	14.4	17.7	11.7
長時間労働を是正すること	13.9	13.8	14.3
パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること	11.6	8.0	14.7
在宅勤務やフレックスタイム制（始業と終業時刻を労働者の意思で決定できる勤務体制）を設けること	11.6	10.4	12.6
女性にも責任ややりがいのある仕事を任せること	6.5	9.5	4.1
その他	2.0	3.0	1.2
特に条件整備は必要ない	0.8	1.1	0.3

単位：％

【性・年代別】

男性、女性ともにどの年代においても「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土等）にすること」の割合が高くなっている。また、女性では、「育児や介護のための施設やサービスを充実させること」も多くなっている。

※太字は上位3つ（「その他」・「特に条件整備は必要ない」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	県全体 (N=2,396)	男性											
		18～19 歳 (N=81)	20～24 歳 (N=86)	25～29 歳 (N=62)	30～34 歳 (N=103)	35～39 歳 (N=151)	40～44 歳 (N=89)	45～49 歳 (N=125)	50～54 歳 (N=65)	55～59 歳 (N=55)	60～64 歳 (N=75)	65～69 歳 (N=69)	70歳以上 (N=107)
男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること	60.7	64.2	60.5	59.7	54.4	55.0	69.7	60.8	50.8	56.4	46.7	44.9	43.9
女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること	42.4	49.4	40.7	45.2	39.8	35.1	39.3	43.2	52.3	41.8	53.3	49.3	57.9
職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土等）にすること	40.2	49.4	34.9	50.0	41.7	31.1	36.0	40.8	36.9	30.9	46.7	42.0	56.1
育児や介護のための施設やサービスを充実させること	30.8	25.9	14.0	27.4	35.9	25.8	27.0	27.2	24.6	40.0	41.3	37.7	24.3
男女の賃金格差をなくすこと	17.7	14.8	11.6	16.1	3.9	9.3	20.2	16.0	20.0	21.8	22.7	18.8	15.0
育児や介護で退職した社員を再雇用する制度を設けること	14.4	23.5	20.9	12.9	21.4	13.2	10.1	12.8	10.8	14.5	21.3	26.1	27.1
長時間労働を是正すること	13.9	7.4	11.6	25.8	14.6	19.2	16.9	16.8	12.3	9.1	12.0	2.9	11.2
パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること	11.6	2.5	4.7	4.8	7.8	11.3	12.4	4.8	6.2	12.7	9.3	8.7	10.3
在宅勤務やフレックスタイム制（始業と終業時刻を労働者の意思で決定できる勤務体制）を設けること	11.6	12.3	4.7	11.3	11.7	15.2	9.0	8.8	12.3	12.7	8.0	8.7	9.3
女性にも責任ややりがいのある仕事を任せること	6.5	2.5	4.7	0.0	3.9	11.9	15.7	9.6	9.2	10.9	6.7	17.4	15.9
その他	2.0	0.0	2.3	1.6	1.9	7.9	4.5	0.8	0.0	7.3	0.0	5.8	1.9
特に条件整備は必要ない	0.8	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.3	2.9	2.8

単位：％

※太字は上位3つ（「その他」・「特に条件整備は必要ない」を除く）、下線は最上位

[3つ以内で複数回答]	県全体 (N=2,396)	女性											
		18～19 歳 (N=77)	20～24 歳 (N=110)	25～29 歳 (N=99)	30～34 歳 (N=135)	35～39 歳 (N=171)	40～44 歳 (N=135)	45～49 歳 (N=150)	50～54 歳 (N=98)	55～59 歳 (N=59)	60～64 歳 (N=94)	65～69 歳 (N=77)	70歳以上 (N=94)
男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること	60.7	66.2	69.1	68.7	60.7	70.2	70.4	60.7	72.4	57.6	60.6	50.6	64.9
女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること	42.4	28.6	37.3	32.3	32.6	28.7	48.1	38.7	49.0	30.5	63.8	50.6	58.5
職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土等）にすること	40.2	33.8	41.8	46.5	41.5	37.4	40.0	36.7	43.9	35.6	43.6	27.3	42.6
育児や介護のための施設やサービスを充実させること	30.8	23.4	31.8	14.1	39.3	37.4	34.1	28.0	30.6	27.1	41.5	51.9	28.7
男女の賃金格差をなくすこと	17.7	31.2	20.9	22.2	13.3	28.7	16.3	13.3	18.4	39.0	19.1	13.0	16.0
育児や介護で退職した社員を再雇用する制度を設けること	14.4	13.0	14.5	10.1	7.4	7.0	11.9	9.3	14.3	16.9	7.4	19.5	18.1
長時間労働を是正すること	13.9	10.4	11.8	17.2	22.2	20.5	5.9	16.7	18.4	15.3	8.5	11.7	6.4
パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること	11.6	5.2	10.0	12.1	14.8	8.2	20.0	13.3	16.3	27.1	18.1	14.3	22.3
在宅勤務やフレックスタイム制（始業と終業時刻を労働者の意思で決定できる勤務体制）を設けること	11.6	11.7	19.1	18.2	12.6	21.6	10.4	10.7	4.1	6.8	7.4	14.3	6.4
女性にも責任ややりがいのある仕事を任せること	6.5	7.8	7.3	6.1	0.0	0.0	3.0	5.3	2.0	0.0	8.5	5.2	7.4
その他	2.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	1.5	2.7	2.0	6.8	0.0	0.0	0.0
特に条件整備は必要ない	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0

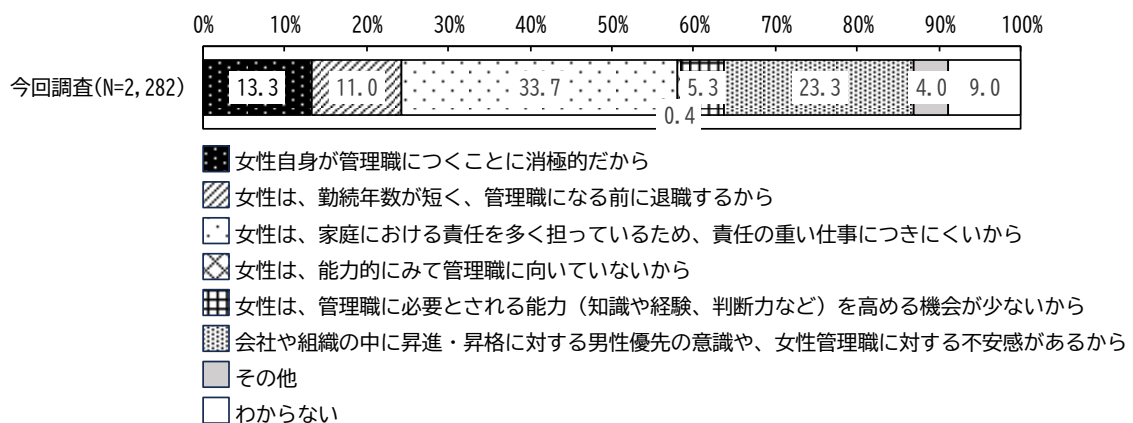
単位：％

(10) 管理職につく女性が少ない最も大きな理由

問27 現状では、管理職につく女性が少ない状況にありますが、その最も大きな理由はなんだと思いますか。あなたの考えに最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。

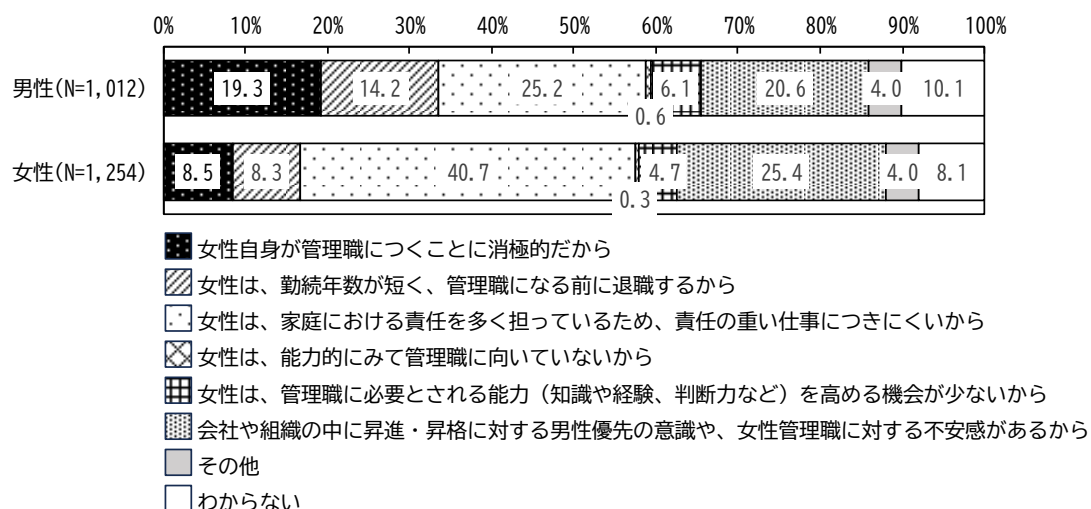
- 「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が 33.7%で最多

管理職につく女性が少ない最も大きな理由は、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多く 33.7%、次いで「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が 23.3%と続いている。



【性別】

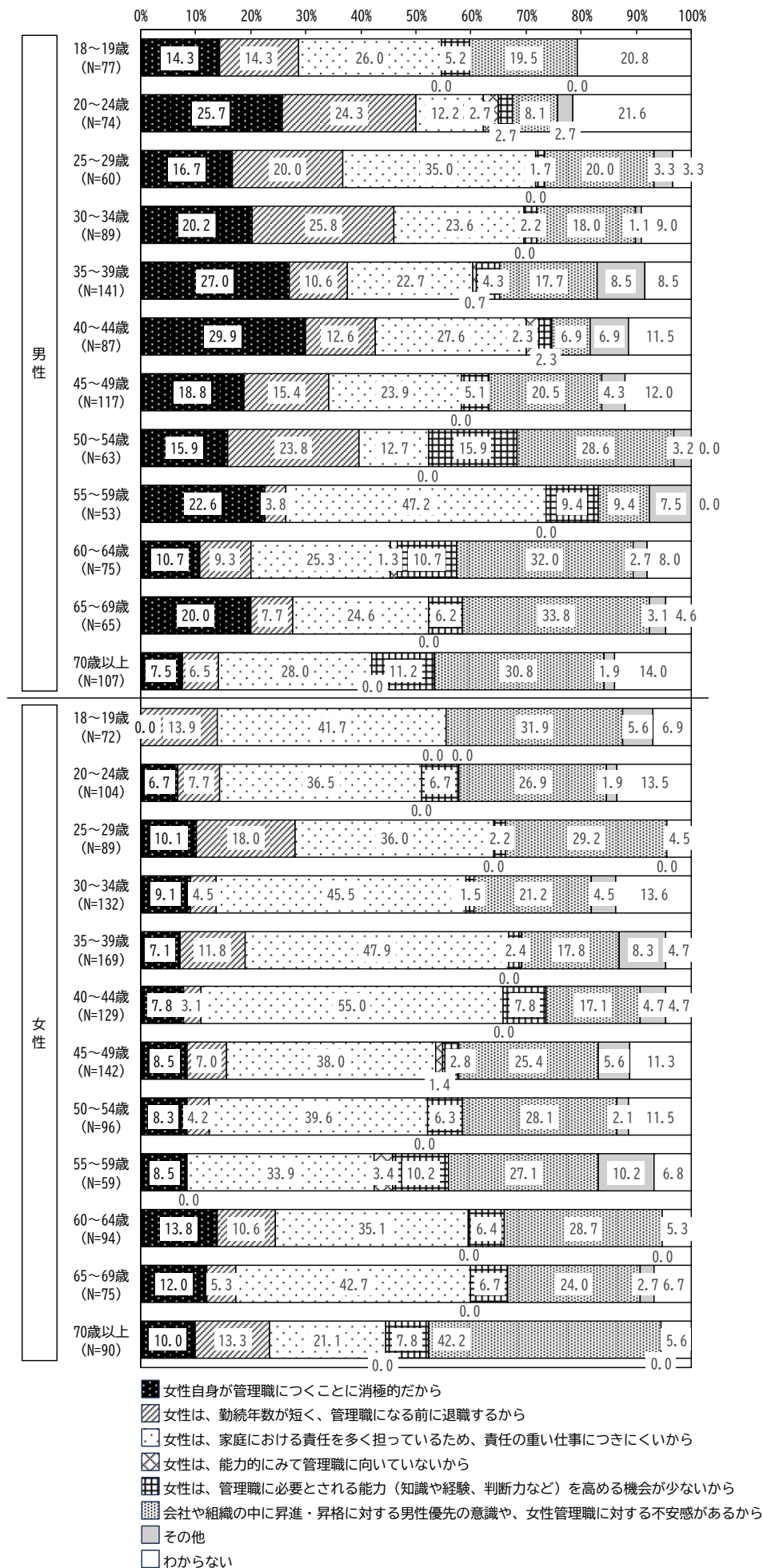
男性、女性ともに「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多く、男性が 25.2%、女性が 40.7%、女性の方が 15.5 ポイント高くなっており、男女の差が大きい。



【性・年代別】

男性では、概ねどの年代においても「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」の割合が高く、55～59 歳が 47.2%と最も多く、20～44 歳は「女性自身が管理職につくことに消極的だから」「女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから」、50～54 歳、60 歳以上は「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が多くなっている。

女性では、18～69 歳は「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が、70 歳以上は「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が最も多くなっている。



【職業別】

会社経営者、自営業主を除く職業は「女性は、家庭における責任を多くになっているため、責任の重い仕事につきにくいから」が、会社経営者、自営業主は「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が最も多くなっている。

